

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

| | | | |
|---|---|--|--|
| 施策体系コード | 5-1-1 | 事業名 | さっぽろ夢大陸「大志塾(仮称)」事業 |
| 担当 | 子ども未来局子ども育成部子どもの権利推進課 猪狩 211-2942 | | |
| 全体計画（当初） | | | |
| 事業内容 | 子どもたち自身が希望・想像する活動を自分たちで準備・調査・計画し、お互いに相談・協力しながら手作りで型にはまらない体験活動を継続的に実施する事業。 次代を担う子どもの自主性・創造性・協調性・自己表現力を育むことを目的とする。 大志塾事業は、これまで行われてきた「(大人が)あらかじめ用意したプログラム」といった事業ではなく、「子どもたちの体験を広げるための支援」を行う事業として、また子どもの意見表明権を具現化する場として位置付けている。 ・活動場所：サッポロさとらんど内の大志塾事業用地 | | <年度別の事業内容> ・16年度： 「大志塾(仮称)」の調査事業「なんでも体験隊」として市内の小学生50人を対象に実施 ・17年度： 調査事業「なんでも体験隊」から本格事業「大志塾」として市内の小学生200人を対象に、農業支援センター等関係機関と連携を図りながら実施。 ・18年度： 農業支援センター等関係機関との連携を強化し、市内の小学生200人を対象に実施 |
| | 平成16年度事業内容（決算） | | 平成17年度事業内容（決算） |
| 事業内容（量・場所・規模等） | 子どもたちの自主性、創造性、協調性などを育むために、子どもたち自らが活動の計画や準備を行い、互いに相談・協力しながら継続的な体験活動を行う参加型事業。 活動期間：6月から9月まで 土曜日7回の活動を実施 対象：市内の小学校1年生から6年生まで 活動場所：サッポロさとらんどの一部(さとらんど整備計画のない休遊地)・中沼青少年キャンプ場・北区民センター 第1回：オリエンテーション、グループ分け、今後の活動についての話し合い(北区民センター) 第2回：畑づくり(雑草取り、ならし)、種まき、苗植え 第3回：畑の手入れ(雑草取り、水まき)、テーブル・ベンチ製作 第4回：畑の手入れ(雑草取り、水まき)、クラフト製作、テーブル・ベンチ製作 第5回：収穫、キャンプ(中沼青少年キャンプ場)、野外炊飯 第6回：収穫、竹馬製作 第7回：収穫祭、修了式(中沼青少年キャンプ場) | 子どもたちの自主性、創造性、協調性などを育むために、子どもたち自らが活動の計画や準備を行い、互いに相談・協力しながら継続的な体験活動を行う参加型事業。 活動期間：5月から9月まで 主に土曜日8回の活動を実施 対象：市内の小学校1年生から6年生まで 活動場所：サッポロさとらんどの一部(さとらんど整備計画のない休遊地)・西岡青少年キャンプ場・さとらんど・市民会館 第1回：オリエンテーション、今後の活動について意見を出す(市民会館) 第2回：子どもたちの意見から活動内容を決定 第3回：子どもたちの意見から活動内容を決定 第4回：子どもたちの意見から活動内容を決定 第5回：キャンプ1日目(西岡青少年キャンプ場) 第6回：キャンプ2日目(西岡青少年キャンプ場) 第7回：さとらんどプログラムを体験 第8回：収穫祭、修了式(さとらんど交流館) | |
| 事業内容（量・場所・規模等） | 平成18年度事業内容（決算） | 評価（成果） | |
| 事業内容（量・場所・規模等） | 子どもたちの自主性、創造性、協調性などを育むために、子どもたち自らが活動の計画や準備を行い、互いに相談・協力しながら継続的な体験活動を行う参加型事業。 活動期間：夏期(5月から9月までの土曜日10回)、冬期(1月から2月までの土曜日4回) 対象：市内の小学校1年生から6年生まで 活動場所：サッポロさとらんどの一部(さとらんど整備計画のない休遊地)・さとらんど交流館など 【夏期】 子ども村づくり、田植え、キャンプ 第1回：オリエンテーション、今後の活動について意見を出す(さとらんど交流館) 第2回：田植え、村づくり活動 第3回～6回：村づくり活動 第7回：村づくり活動、子ども村祭、キャンプ 第8回～9回：村づくり活動 第10回：収穫祭、修了式 【冬期】 雪国ならではの遊びや文化に関連する活動 第1回：オリエンテーション、今後の活動について意見を出す(さとらんどセンター) 第2～3回：雪像づくり(雪まつりさとらんど会場) 第4回：雪像づくり、修了式(雪まつりさとらんど会場) | 子どもたちの多様な意見や考えを実現するための時間(活動期間や意見集約から実際に活動するまでの時間等)やサポート体制を見直し、より子どもたちの意見が反映される手法を構築した。 今までは少年リーダー研修修了生を中心に活動をサポートしていたが、少年リーダー研修と大志塾事業とを連携させることにより、少年リーダー研修生の参加も可能となり、サポート体制が充実した。 また、他部局等の協力により活動に必要な廃材等の材料を用意した。 | |
| 19年度以降の方向性・事業の予定 | | | |
| 子どもたちの多様な意見や考えを実現するために、様々な知識や技能を持った大人たちに関わりを持ってもらえるような体制を構築する。また、材料(廃材、土、石等)の調達方法についても安定した供給ができるように仕組みを検討する。 併せて、子どもたちが、自分たちの身近な地域で、いつでも様々な体験活動ができるよう地域的な展開について検討する。 延いては、地域において同様の事業が展開され、子どもたちが積極的に体験活動を行い、大人たちが子どもの体験活動に関わりを持ってもらうように、事業のPRを行っていく。 | | | |

